

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第6576210号
(P6576210)

(45) 発行日 令和1年9月18日 (2019.9.18)

(24) 登録日 令和1年8月30日 (2019.8.30)

(51) Int.Cl.	F I
B 6 5 D 8/06 (2006.01)	B 6 5 D 8/06
B 6 5 D 77/04 (2006.01)	B 6 5 D 77/04 A
B 6 5 D 25/20 (2006.01)	B 6 5 D 25/20 A
A 4 5 D 40/00 (2006.01)	A 4 5 D 40/00

請求項の数 5 (全 10 頁)

(21) 出願番号	特願2015-215070 (P2015-215070)	(73) 特許権者	000006909
(22) 出願日	平成27年10月30日 (2015.10.30)		株式会社吉野工業所
(65) 公開番号	特開2017-81639 (P2017-81639A)		東京都江東区大島3丁目2番6号
(43) 公開日	平成29年5月18日 (2017.5.18)	(74) 代理人	100147485
審査請求日	平成30年5月2日 (2018.5.2)		弁理士 杉村 憲司
		(74) 代理人	100154003
			弁理士 片岡 憲一郎
		(72) 発明者	古原 裕嗣
			東京都江東区大島3丁目2番6号 株式会
			社吉野工業所内
		審査官	蓮井 雅之

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 二重容器

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

筒状の周壁部及び該周壁部の一端側を塞ぐ底壁部を有するレフィル用の内容器と、
 該内容器を収納する有底筒状の内容器収納部を備える外容器と、
 前記内容器と前記外容器の間に前記内容器の前記周壁部の外面と前記底壁部の外面を繋ぐ傾斜面に沿って該内容器の周方向に延在するアーム部、及び該アーム部に連なり前記外容器に設けた開口を介して外部に露出する押圧部を有する押し込み部材と、を備え、
 前記押圧部を前記外容器の径方向内側に向けて押し込むことで、前記アーム部が、前記傾斜面に対して摺動しながら径方向内側に移動して前記内容器を上方に押し上げることを特徴とする二重容器。

【請求項 2】

前記内容器は、前記周壁部の外面に、前記内容器収納部の内面に設けた被係合部に対してアンダーカット係合する係合部を有し、

前記押圧部を前記外容器の径方向内側に向けて押し込んで前記内容器を上方に押し上げることにより、前記係合部と前記被係合部との係合が解除される、請求項 1 に記載の二重容器。

【請求項 3】

前記外容器は、側壁を構成する側壁部材と、該側壁部材の一端側に装着される底蓋とを備える、請求項 1 又は 2 に記載の二重容器。

【請求項 4】

10

20

前記外容器は、側壁を構成する筒状部と、該筒状部に一体に連結された底壁部とを備える、請求項 1 又は 2 に記載の二重容器。

【請求項 5】

前記アーム部を取り囲む前記外容器の側壁の内面に、該内面から径方向内側に膨出する膨出部を設け、

前記押圧部を前記外容器の径方向内側に向けて押し込んだ際に、前記アーム部の先端が前記膨出部に乗り上げて径方向内側に移動する、請求項 1 ～ 4 の何れか一項に記載の二重容器。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

10

【0001】

本発明は、レフィル（詰め替え）用の内容器と外容器とを備える二重容器に関し、特に、内容器の交換を容易化しようとするものである。

【背景技術】

【0002】

従来、クリーム等の内容物を収容する容器として、内容物のレフィル用の内容器と、内容物を収納する外容器とを備える二重容器が知られている。このような二重容器では、内容器の交換に際し、内容器を外容器から取り外す必要があるが、その取り外しの要領としては、例えば、内容器を摘み引き上げる、外容器の底部に内容器を押し上げるための貫通孔を設ける、コイン等を用い挟み開ける、といったものが考えられている。また、例えば特許文献 1 では、内容器に、押圧操作により上端を支点に径方向内側に向けて揺動変位する押圧部を設け、外容器には、該押圧部を露出させる切欠き部を設けると共に該押圧部が係止可能な被係止部を設ける構成が提案されている。この容器においては、押圧部を径方向内側に押圧したまま内容器を上方に引き抜くことで、内容器を外容器から取り外すことができる。また、新たな内容器を取り付ける際には、係止部を被係止部に係合させるために、外容器に対する内容器の周方向の相対的な位置を合わせる必要があった。

20

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献 1】特開 2010 - 195484 号公報

30

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

しかしながら、前記したような内容器の取り外し要領を採用する場合には、内容器を取り外すのに比較的大きな力が必要となっており、高齢者等にとっては取り外し難いものであった。また交換の要領をより分かり易くして、使い易いものとすることも望まれている。

【0005】

それゆえ、本発明は、外容器の内側に収納される内容器の交換の際に、簡単な操作で容易に内容器を取り外すことが可能な新たな構造の二重容器を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

40

【0006】

本発明は上記課題を解決するためになされものであり、本発明の二重容器は、筒状の周壁部及び該周壁部の一端側を塞ぐ底壁部を有するレフィル用の内容器と、

該内容器を収納する有底筒状の内容器収納部を備える外容器と、

前記内容器と前記外容器の間で前記内容器の周方向に沿って延在するアーム部、及び該アーム部に連なり前記外容器に設けた開口を介して外部に露出する押圧部を有する押し込み部材と、を備え、

前記押圧部を前記外容器の径方向内側に向けて押し込むことで、前記アーム部が、前記周壁部の外面と前記底壁部の外面を繋ぐ傾斜面に対して摺動しながら径方向内側に移動して前記内容器を上方に押し上げることを特徴とする。

50

【 0 0 0 7 】

なお、本発明の二重容器にあっては、前記内容器は、前記周壁部の外面に、前記内容器収納部の内面に設けた被係合部に対してアンダーカット係合する係合部を有し、

前記押圧部を前記外容器の径方向内側に向けて押し込んで前記内容器を上方に押し上げるにより、前記係合部と前記被係合部との係合が解除されることが好ましい。

【 0 0 0 8 】

また、本発明の二重容器にあっては、前記外容器は、側壁を構成する側壁部材と、該側壁部材の一端側に装着される底蓋とを備えることができる。

【 0 0 0 9 】

また、本発明の二重容器にあっては、前記外容器は、側壁を構成する筒状部と、該筒状部に一体に連結された底壁部とを備えることができる。

10

【 0 0 1 0 】

また、本発明の二重容器にあっては、前記アーム部を取り囲む前記外容器の側壁の内面に、該内面から径方向内側に膨出する膨出部を設け、

前記押圧部を前記外容器の径方向内側に向けて押し込んだ際に、前記アーム部の先端が前記膨出部に乗り上げて径方向内側に移動することが好ましい。

【 発明の効果 】

【 0 0 1 1 】

本発明によれば、内容器の交換に際し、外容器の外周面に露出する押し込み部材を径方向内側に押し込む操作のみで内容器が上方へ移動するため、比較的小さな力で容易に内容器を容易に取り外すことができる。

20

【 0 0 1 2 】

したがって、本発明によれば、外容器の内側に収納される内容器の交換の際に、簡単な操作で容易に内容器を取り外すことが可能な新たな構造の二重容器を提供することができる。

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 1 3 】

【 図 1 】 (a) は、本発明の一実施形態に係る二重容器の断面側面図であり、 (b) は、図 1 (a) の二重容器における A - A 断面図である。

【 図 2 】 (a) は、図 1 の二重容器において、外容器から内容器を取り外す様子を示す断面側面図であり、 (b) は図 2 (a) の二重容器における B - B 断面図である。

30

【 図 3 】 (a) は、本発明の他の実施形態に係る二重容器の断面側面図であり、 (b) は、図 3 (a) の二重容器における C - C 断面図である。

【 図 4 】 (a) は、図 3 の二重容器において、外容器から内容器を取り外す様子を示す断面側面図であり、 (b) は図 4 (a) の二重容器における D - D 断面図である。

【 発明を実施するための形態 】

【 0 0 1 4 】

以下、図 1 ~ 図 4 を参照して、本発明の一実施形態に係る二重容器 1 について詳細に例示説明する。なお、本明細書において、上下方向とは、内容器 1 0 及び外容器 2 0 の中心軸線 O に沿う方向を意味し、上方とは内容器 1 0 の内容物収容部 1 1 の開口部 1 2 が位置する側 (例えば、図 1 における上方) 、下方とは内容物収容部 1 1 の底壁部 1 4 が位置する側 (例えば、図 1 における下方) を意味するものとする。

40

【 0 0 1 5 】

図 1 に示すように、本実施形態に係る二重容器 1 は、レフィル用の内容器 1 0 と、外容器 2 0 と、押し込み部材 3 0 と、外容器キャップ 4 0 とを備えている。

【 0 0 1 6 】

内容器 1 0 は、軸線 O を中心とする有底筒状の内容物収容部 1 1 を備え、当該内容物収容部 1 1 に内容物 C が収容されている。すなわち、内容物収容部 1 1 は、その上部に開口部 1 2 を形成すると共に、一体に連結された周壁部 1 3 及び底壁部 1 4 を有する。周壁部 1 3 の外面上部には、環状の外向き凸部 1 5 (係合部) が設けられている。また、周壁部

50

１３の上端部には、周壁部１３の他の部分よりも大径で外容器２０の側壁部材２３の上方に配置される上筒部１６が設けられている。

【００１７】

また、内容器１０には、周壁部１３の外面と底壁部１４の外面（下面）とを繋ぎ、軸線Ｏを中心とする周方向に沿って環状に延在する傾斜面１７が設けられている。傾斜面１７は、周壁部１３から底壁部１４に向けて、つまり下方に向けて、徐々に縮径している。なお、本実施形態では、図１（ａ）に示す断面において傾斜面１７の輪郭線が直線状となる形状としているが、これに限定されず、傾斜面１７の輪郭線が曲線となる湾曲形状としてもよい。

【００１８】

外容器２０は、図１に示すように、内容器１０を収納する有底筒状の内容器収納部２１を備えている。内容器収納部２１は、その上部に開口部２２を形成する筒状の側壁部材２３と、側壁部材２３の一端側（下端側）の開口を塞ぐように装着される底蓋２４とを有する。側壁部材２３の上部の外面には雄ねじ２５が設けられており、内面には、外向き凸部１５とアンダーカット係合して、内容器１０の抜け出しを妨げる内向き凸部２６（被係合部）が設けられている。側壁部材２３の下端部には、底蓋２４の環状溝部２４ａに嵌合する嵌合筒部２７が設けられている。側壁部材２３下部の外面には、後述する押圧部３３が入り込む凹部２８が設けられている。側壁部材２３には、凹部２８を設けたことにより薄肉部２９が形成されており、当該薄肉部２９には下端から上方に向かって切欠き状に形成された溝部２９ａ（開口）が形成されている。

【００１９】

押し込み部材３０は、図１（ａ）、（ｂ）に示すように、円弧状に湾曲するアーム部３１と、アーム部３１の中央部から径方向外側に延びる連結部３２を介してアーム部３１に連なる押圧部３３とを有する。アーム部３１は、内容器１０と外容器２０の間で、傾斜面１７に隣接して配置される。すなわち、アーム部３１は、軸線Ｏを中心とした周方向に沿って延在するとともに、側壁部材２３の内面、底蓋２４の内面（上面）、及び傾斜面１７で囲まれる空間に配置される。本実施形態においてアーム部３１は、軸線Ｏを中心として周方向に１８０°を僅かに超える範囲に延在する構成としているが、これに限定されず、１８０°未満の、例えば９０°程度の範囲に延在する構成としてもよいし、１８０°を大きく超えて、例えば２７０°程度の範囲に延在するような形状としてもよいし、全周にわたって延在する円環状とすることも可能である。

【００２０】

押圧部３３は、側壁部材２３下部の外面に設けられた凹部２８に嵌り込む。凹部２８の周囲の側壁部材２３の外面には、面取り部２８ａが上下左右に設けられている。これにより、押圧部３３を押し込む指が、凹部２８周囲の側壁部材２３の外面によって遮られ難くなり、押圧部３３を押し込み易くなっている。

【００２１】

外容器２０に押し込み部材３０を取り付ける際には、底蓋２４を取り外した状態で、溝部２９ａに連結部３２が入り込むように下方から挿し込み、その後底蓋２４を取り付ける。このようにして取り付けられた押し込み部材３０は、外容器２０に対して、所定の範囲で径方向に移動可能となる。すなわち、アーム部３１と押圧部３３の距離と、これらアーム部３１及び押圧部３３の間に位置する薄肉部２９の厚みとの差に応じて、押し込み部材３０は径方向に移動可能となっている。なお、図１（ａ）、（ｂ）は、押し込み部材３０が、移動可能な範囲内において最も径方向外側に位置する初期状態を示しており、図２（ａ）（ｂ）は、最も径方向内側に位置する最大押し込み状態を示している。

【００２２】

なお、初期状態において、押圧部３３の外表面３３ａは、外容器２０の外部に露出しているものの、当該押圧部３３の外表面３３ａは、側壁部材２３の外表面と略同一面上に位置しているため、全体として凹凸の少ない円柱状となるようにしている。これにより、一体感のある外観を得ることができ、容器の美観性を高めることができる。

【 0 0 2 3 】

外容器キャップ 4 0 は、図 1 (a) に示すように、円筒状の外壁部 4 1 と、外壁部 4 1 の上端部を閉塞する天壁部 4 2 とを備えている。外壁部 4 1 の内周面には、前述した雄ねじ 2 5 と螺合する雌ねじ 4 3 が設けられている。天壁部 4 2 の下面には、円板状のパッキン 4 4 が貼着されており、内容物 1 0 の上筒部 1 6 の上面とパッキン 4 4 とが密接することで、内容物収容部 1 1 が密封されるようになっている。なお、本実施例ではパッキン 4 4 を貼着にて組付けているが、これに限られるものではなく、外容器キャップ 4 0 の外壁部 4 1 内周面に凸部を設け、当該凸部を乗り越えることで組付けるなど、パッキン 4 4 が脱落しない程度に組付けられていればよく、その組付け方法は適宜選択可能である。

【 0 0 2 4 】

かかる構成の二重容器 1 において、内容物 C を使い切った際などに、以下の要領で内容物 1 0 を新たな内容物 1 0 と交換することができる。すなわち、まず、図 1 に示す状態から外容器キャップ 4 0 を螺脱方向に回転させて取り外す。次いで図 1 (b) の矢印に示すように、押し込み部材 3 0 の押圧部 3 3 の外面 3 3 a を、外容器 2 0 の径方向内側に向けて押し込むと、連結部 3 2 を介してアーム部 3 1 が径方向内側に押し込まれる。アーム部 3 1 が径方向内側に移動する際、アーム部 3 1 が傾斜面 1 7 に当接して、傾斜面 1 7 が径方向内側に押圧される。内容物 1 0 は、外容器 2 0 の側壁部材 2 3 に取り囲まれて相対的な水平方向の変位を規制されており、傾斜面 1 7 に加えられた径方向内側へ向かう力の一部は傾斜面 1 7 によって上方へ向かう力に変換される。このため、アーム部 3 1 が傾斜面 1 7 に対して摺動しながら径方向内側に移動すると、内容物 1 0 は上方に押し上げられる。なお、この間、アーム部 3 1 は底蓋 2 4 の内面 (上面) によって下方から支持されている。そして、図 2 (a) に示すように上方に押し上げられた内容物 1 0 の上筒部 1 6 を把持して上方に引き上げて取り出し、そのままの状態で使用済みの内容物 1 0 を破棄することができる。

【 0 0 2 5 】

次に、新たな内容物 1 0 を外容器 2 0 に取り付ける方法について説明する。なお、レフィル用の内容物 1 0 は、例えば、未使用の状態では、キャップ部材やシール部材が装着されること等により開口部 1 2 が閉塞され、クリーム等の内容物 C の品質が維持されるようになっている。外容器 2 0 に取り付ける際に当該キャップ部材やシール部材を除去する構成とすることができる。

【 0 0 2 6 】

新たな内容物 1 0 を外容器 2 0 に取り付ける際には、外容器 2 0 の内容物収納部 2 1 に新たな内容物 1 0 を底壁部 1 4 側から挿入して押し込むことで、傾斜面 1 7 がアーム部 3 1 に当接してアーム部 3 1 を径方向外側に押し出しながら下方に移動する。新たな内容物 1 0 の上筒部 1 6 の下面が側壁部材 2 3 の上面に当接するまで内容物 1 0 を押し込むと、押し込み部材 3 0 が図 1 (a)、(b) に示す初期状態の位置まで自動的に戻り、内容物 1 0 の交換が完了する。

【 0 0 2 7 】

以上説明したように、本実施形態に係る二重容器 1 は、内容物 1 0 の交換に際して、外容器 2 0 の外面に露出した押圧部 3 3 の外面 3 3 a を押し込む操作だけで、内容物 1 0 を外容器 2 0 から一定の範囲で上方に押し出すことができる。これにより、比較的小さな力で、複雑な操作を伴うことなく容易に内容物 1 0 を取出すことが可能となる。また、新たな内容物 1 0 を、外容器 2 0 の内容物収納部 2 1 に押し込む操作のみで取り付けることができるので、取り付け操作も容易である。

【 0 0 2 8 】

なお、本実施形態では、図 1 (a)、(b) に示す初期状態から、図 2 (a)、(b) に示す最大押し込み状態まで押圧部 3 3 を押し込む過程において、外向き凸部 1 5 と内向き凸部 2 6 の係合が解除される構成としている。これにより、図 2 (a)、(b) に示す最大押し込み状態まで押圧部 3 3 を押し込んだ後は、外向き凸部 1 5 と内向き凸部 2 6 の係合が解除されているので、上筒部 1 6 を把持して上方に引き上げれば、軽い力で容易に

内容器 10 を取り出すことができる。また、新たな内容器 10 を外容器 20 の内容器収納部 21 に押し込む過程において、外向き凸部 15 と内向き凸部 26 が互いに乗り越えて嵌合し、内容器 10 の抜け出しを妨げる構成としている。これにより、外容器キャップ 40 を外した状態（図 3（b）の状態）において内容器 10 が脱落することを防止することができる。

【0029】

また、本実施形態においては、内容器 10 の外形を周方向に均一な有底円筒状としている。これにより、内容器 10 を外容器 20 に挿入する際に、相互の周方向の位置を確認して位置合わせする必要がないので、取り付けがさらに容易となる。

【0030】

また、本実施形態では、溝部 29a の溝幅よりも押圧部 33 及びアーム部 31 の幅を大きくして、押圧部 33 及びアーム部 31 が、溝部 29a を径方向に通り抜けられない構成としている。よって、底蓋 24 を取り外さない限りは、押し込み部材 30 が外容器 20 から脱落する虞がない。また、押圧部 33 を径方向内側に押し込む際には、薄肉部 29 に押圧部 33 が当接してそれ以上の押し込みが規制されるため、押圧部 33 を押し込み過ぎて、元の位置に戻り難くなるといった虞もない。

【0031】

また、本実施形態では、アーム部 31 が、周方向に沿って 180 度以上の範囲にわたって、内容器 10 の傾斜面 17 を取り囲むようにしている。これにより、周方向の広い範囲にわたって、傾斜面 17 にアーム部 31 からの押圧力を伝達することができ、より小さな力で容易に内容器 10 を押し上げることが可能となる。なお、アーム部 31 は、内容器 10 を全周にわたって取り囲む円環状とすることも可能である。この場合、押圧部 33 を径方向内側に向けて押し込むことでアーム部 31 は平面視で円形が歪むように弾性変形し、押圧部 33 への押圧力が解除されるとアーム部 31 の復元力によりアーム部 31 が元の形状に戻り、その結果、押圧部 33 も元の位置に戻る。

【0032】

図 3、4 は、本発明の第 2 実施形態を示している。なお、上述した実施形態と基本的な機能が同一である部分は、図中、同一の符号を付して説明を省略する。

【0033】

図 3（a）、（b）に示すように、本実施形態の二重容器 100 において、外容器 120 の内容器収納部 121 は、側壁を構成する筒状部 123 と、当該筒状部 123 に一体に連結された底壁部 124 とを有する。筒状部 123 の下部には、筒状部 123 を貫通する貫通孔 123a（開口）が形成されている。また、筒状部 123 には、貫通孔 123a に対向する方向の内面下部において、筒状部 123 の内面から径方向内側に膨出する膨出部 123b を設けている。

【0034】

押し込み部材 130 は、円弧状に湾曲する一対のアーム部 131 と、一対のアーム部 131 のそれぞれ的一端部から径方向外側に延びる一対の連結部 132 と、一対の連結部 132 を繋ぐ押圧部 133 とを有する。一対のアーム部 131 を合わせた周方向の延在範囲は、第一実施形態のアーム部 31 と同様に、軸線 O を中心とした 180° を僅かに超える範囲としているが、これに限られるものではない。また、図 3（b）に示す初期状態において、アーム部 131 の延在する範囲を除く周方向位置に、膨出部 123b が設けられており、アーム部 131 の先端 131a は、膨出部 123b の先端 123c に近接配置されている。膨出部 123b の先端 123c には、アーム部 131 の先端 131a に向けて徐々に大径となるよう形成された傾斜面 123d が設けられている。これにより、押圧部 133 を径方向内側に押し込んだ際に、アーム部 131 の先端 131a が、スムーズに膨出部 123b の径方向内側に移動することができる。

【0035】

本実施形態の押し込み部材 130 を外容器 120 に取り付ける際には、内容器 10 を取り外した状態で、一対のアーム部 131 を径方向内側に弾性変形させながら、内容器収納

10

20

30

40

50

部 1 2 1 に挿入し、押圧部 1 3 3 を貫通孔 1 2 3 a に挿し込むようにして配置する。

【 0 0 3 6 】

図 3 (a)、(b) に示す初期状態から、内容器 1 0 を交換する際には、まず、外容器キャップ 4 0 を螺脱方向に回転させて取り外す。次いで図 3 (b) の矢印に示すように、押し込み部材 1 3 0 の押圧部 1 3 3 の外面 1 3 3 a を、外容器 1 2 0 の径方向内側に向けて押し込む。これにより、一对の連結部 1 3 2 を介してアーム部 1 3 1 が径方向内側に押し込まれて傾斜面 1 7 に対して摺動し、内容器 1 0 が上方に押し出される。なお、本実施形態では、アーム部 1 3 1 が径方向内側に押し込まれた際に、アーム部 1 3 1 の先端 1 3 1 a が膨出部 1 2 3 b の先端 1 2 3 c に乗上げて膨出部 1 2 3 b の径方向内面側に移動する。これにより、アーム部 1 3 1 の先端 1 3 1 a を含む周方向の全体の領域にわたって、径方向内側に移動し易くなり、周方向のより広い範囲にわたって傾斜面 1 7 を押圧することができる。これにより、より容易に内容器 1 0 を押し上げることができる。

10

【 0 0 3 7 】

図 4 (a)、(b) に示す最大押し込み状態まで押圧部 1 3 3 を押し込むと、外向き凸部 1 5 と内向き凸部 2 6 の係合は解除されているので、内容器 1 0 を軽い力で引き上げて取り出し、そのままの状態で使用済みの内容器 1 0 を破棄することができる。新たな内容器 1 0 を外容器 1 2 0 に取り付ける際には、先の第 1 実施形態と同様に、内容器収納部 1 2 1 に新たな内容器 1 0 を挿入して押し込むだけで、押し込み部材 1 3 0 が図 3 (a)、(b) に示す初期状態の位置まで自動的に戻り、内容器 1 0 の交換が完了する。

【 0 0 3 8 】

20

本実施形態に係る二重容器 1 0 0 は、外容器 1 2 0 における筒状部 1 2 3 と底壁部 1 2 4 を一体に連結して 1 部品としているため、これらを 2 部品で構成する場合に比べて部品点数を削減することができる。

【 0 0 3 9 】

本発明は前記実施の形態に限定されるものではなく、その要旨を逸脱しない範囲で種々変更可能であることはいうまでもない。

【 0 0 4 0 】

例えば、内容器 1 0 の周壁部 1 3 や外容器 2 0 の側壁部材 2 3 は、円筒状に限らず、楕円形状や他の形状としてもよい。また、第 1 実施形態の外容器 2 0 の側壁部材 2 3 の内面に、第 2 実施形態の膨出部 1 2 3 b の構成を設けてもよい。また、先の実施形態では外容器 2 0、1 2 0 と外容器キャップ 4 0 とがねじ係合する構成としたが、これに限定されず、着脱可能にアンダーカット係合する構成とすることも可能である。

30

【 符号の説明 】

【 0 0 4 1 】

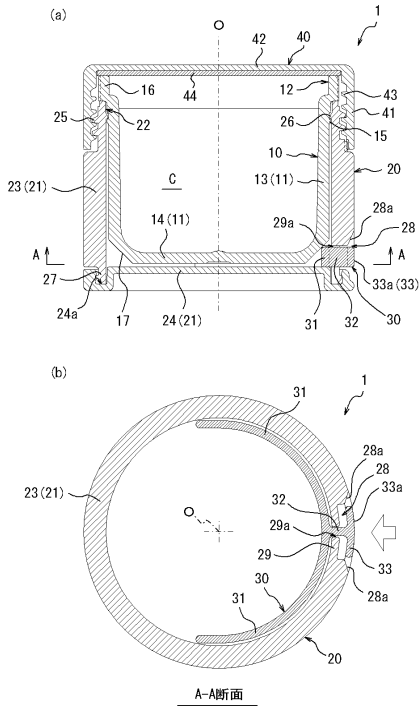
- 1 二重容器
- 1 0 内容器
- 1 1 内容物収容部
- 1 2 開口部
- 1 3 周壁部
- 1 4 底壁部
- 1 5 外向き凸部 (係合部)
- 1 6 上筒部
- 1 7 傾斜面
- 2 0 外容器
- 2 1 内容器収納部
- 2 2 開口部
- 2 3 側壁部材
- 2 4 底蓋
- 2 4 a 環状溝部
- 2 5 雄ねじ

40

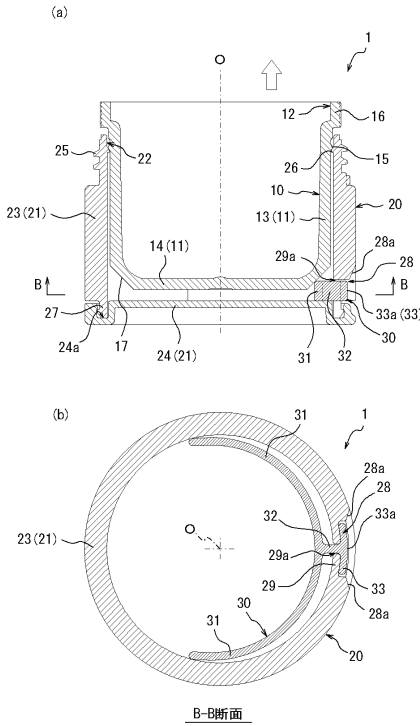
50

2 6	内向き凸部（被係合部）	
2 7	嵌合筒部	
2 8	凹部	
2 8 a	面取り部	
2 9	薄肉部	
2 9 a	溝部（開口）	
3 0	押し込み部材	
3 1	アーム部	
3 2	連結部	
3 3	押圧部	10
3 3 a	押圧部の外面	
4 0	外容器キャップ	
4 1	外壁部	
4 2	天壁部	
4 3	雌ねじ	
4 4	パッキン	
1 0 0	二重容器	
1 2 0	外容器	
1 2 1	内容器収納部	
1 2 3	筒状部	20
1 2 3 a	貫通孔（開口）	
1 2 3 b	膨出部	
1 2 3 c	膨出部の先端	
1 2 3 d	傾斜面	
1 2 4	底壁部	
1 3 0	押し込み部材	
1 3 1	アーム部	
1 3 1 a	アーム部の先端	
1 3 2	連結部	
1 3 3	押圧部	30
1 3 3 a	押圧部の外面	
O	軸線	
C	内容物	

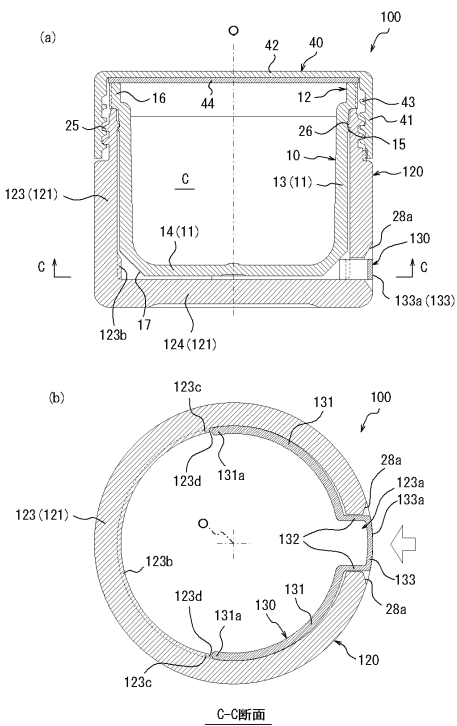
【図 1】



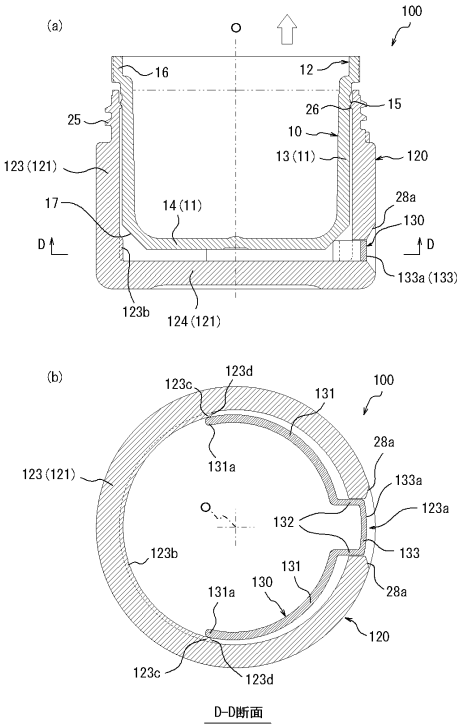
【図 2】



【図 3】



【図 4】



フロントページの続き

(56)参考文献 実開昭61-144026(JP,U)
実開平06-072507(JP,U)
実開昭58-084007(JP,U)
実開昭61-144013(JP,U)
特開2003-112775(JP,A)
特開2013-112377(JP,A)
実開昭62-006210(JP,U)
実開昭63-123218(JP,U)
特開2005-138861(JP,A)
欧州特許出願公開第0661012(EP,A1)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

B 6 5 D	8 / 0 6
A 4 5 D	4 0 / 0 0
B 6 5 D	2 5 / 2 0
B 6 5 D	7 7 / 0 4